

令和3年度第4回むかわ町子ども化石くらぶ（ハドロキッズチーム）開催報告

開催日：令和3年12月12日（日）

実施場所：むかわ町穂別町民センター

令和3年度第4回のむかわ町子ども化石くらぶでは、むかわ町穂別博物館の西村智弘学芸員による「粒度表^{りゅうどひょう}」作成の実習と、「化石博士のなりかた」というテーマの講演を実施しました。

【5・6年生の部（午前）】

会員児童9名が参加しました。実習では、粒の大きさが異なる5種類の砂を台紙に貼り付けて「粒度表」という道具を作りました。これは岩石を形作る砂や泥の粒の大きさを見分けるために使うもので、地質調査のプロも持っているものです。化石は生き物のからだだが砂や泥のなかに埋もれたものです。ある岩石の中から化石が見つかったなら、おなじ大きさの粒でできている岩石を探せば、おなじように化石を見つけることができるかもしれません。会員児童たちは事前に博物館のスタッフがふるいをつかって大きさごとによりわけた砂粒を、木工用ボンドを使って台紙にはりつけました。

後半では「化石博士のなりかた」というテーマで、引き続き学芸員による講義を受講しました。そもそも化石博士というのはどういう人のことなのか、日本に化石博士は何人いるのか、化石博士になるにはどのくらいの年月がかかるのか。化石博士になるための道のりを改めて会員児童に紹介しました。



会員児童は台紙にボンドを塗り、スタッフが盛り付けた砂粒を貼り付けました。



粒度表づくりの様子。スタッフやボランティアも粒度表づくりに挑戦しました。
できあがった粒度表は、色鉛筆やシールで思い思いに飾り付けました。



完成した粒度表。粒の大きさが違うと触ったときの感触も違います。
この感触も、フィールドで岩石を見分ける助けになります。



西村学芸員による「化石博士のなりかた」についての講義。



集合写真

【3・4年生の部（午後）】

会員児童の16名が参加しました。実習は5・6年生と同じように粒度表づくりを行いました。「化石博士のなりかた」は3・4年生の学習内容に合わせて実施しました。



粒度表づくりの様子。通常は大学生くらいになってから作るものとのことなので、かなり高度な内容にチャレンジした実習となりました！



砂粒を貼り付けた後は、岩石（堆積岩）を構成する粒子の
大きさごとの分類を示したラベルを貼りました。



砂粒の大きさがなぜ重要なのか、ペットボトルを使った実験で観察しました。
砂粒の大きさを実際に測って確かめる児童もいました。



西村学芸員による「化石博士のなりかた」についての講義。
会員児童が化石博士のほかになりたいのは、
サメ博士、地質学者、細胞の研究者…3・4年生にはアカデミックな仕事が人気でした。



集合写真

12月12日の活動では、卒業生ボランティア（中学生）2名、博物館ボランティア2名の方にお手伝いをしていただきました。ご協力ありがとうございました。

むかわ町穂別博物館 学芸員 西村智弘
むかわ町経済恐竜ワールド戦略室 主事 太田晶